

だいこん萎黄病抵抗性品種「W - 1511」

近年、本県のだいこん産地では萎黄病の発生による被害が増加しており、栽培面積、生産量とも年々減少している。だいこん品種「W - 1511」は、抽苔性や品質の点でやや問題はあつたものの、萎黄病に対して強い抵抗性を有している。



写真1 萎黄病抵抗性検定

発病株率：W-1511(1%)、YRくらま(20%)、宮小町(12%)、天宝(100%)
萎黄病汚染圃場においてW-1511は強い抵抗性を示した。

抽苔の早晩は「いわて青首」より早く、「宮小町」より晚い。

表1 抽苔回避温度(べたがけの被覆期間は播種後20日間)

品種名	播種後20日間の日平均気温()			
	べたがけ	無マルチ	黒マルチ	透明マルチ
いわて青首	無	13	13	11
	有	11	11	9
W-1511 (暫定)	無	15 前後	13 前後	12 ~ 13
	有	12 ~ 13	12 ~ 13	10 ~ 11
宮小町	無	17	-	-

表2 収穫時の生育及び品質

播種期	品種名	根重 (g)	根長 (cm)	青首部の 着色程度	収穫物の 硬さ(lb)
5.31	W-1511	981	30.7	2.0	23.5
	いわて青首	947	29.1	2.1	18.2
6.26	W-1511	925	34.4	2.0	19.7
	宮小町	889	34.4	2.5	18.4
	耐病総太り	898	35.2	2.5	18.4
8.9	W-1511	928	33.7	1.8	17.8
	耐病総太り	855	36.7	2.2	17.7

青首部の着色程度は各作期とも対照品種より薄い。肉質は、低温期には「いわて青首」より硬いが、高温期には「耐病総太り」並みの軟らかさとなる。